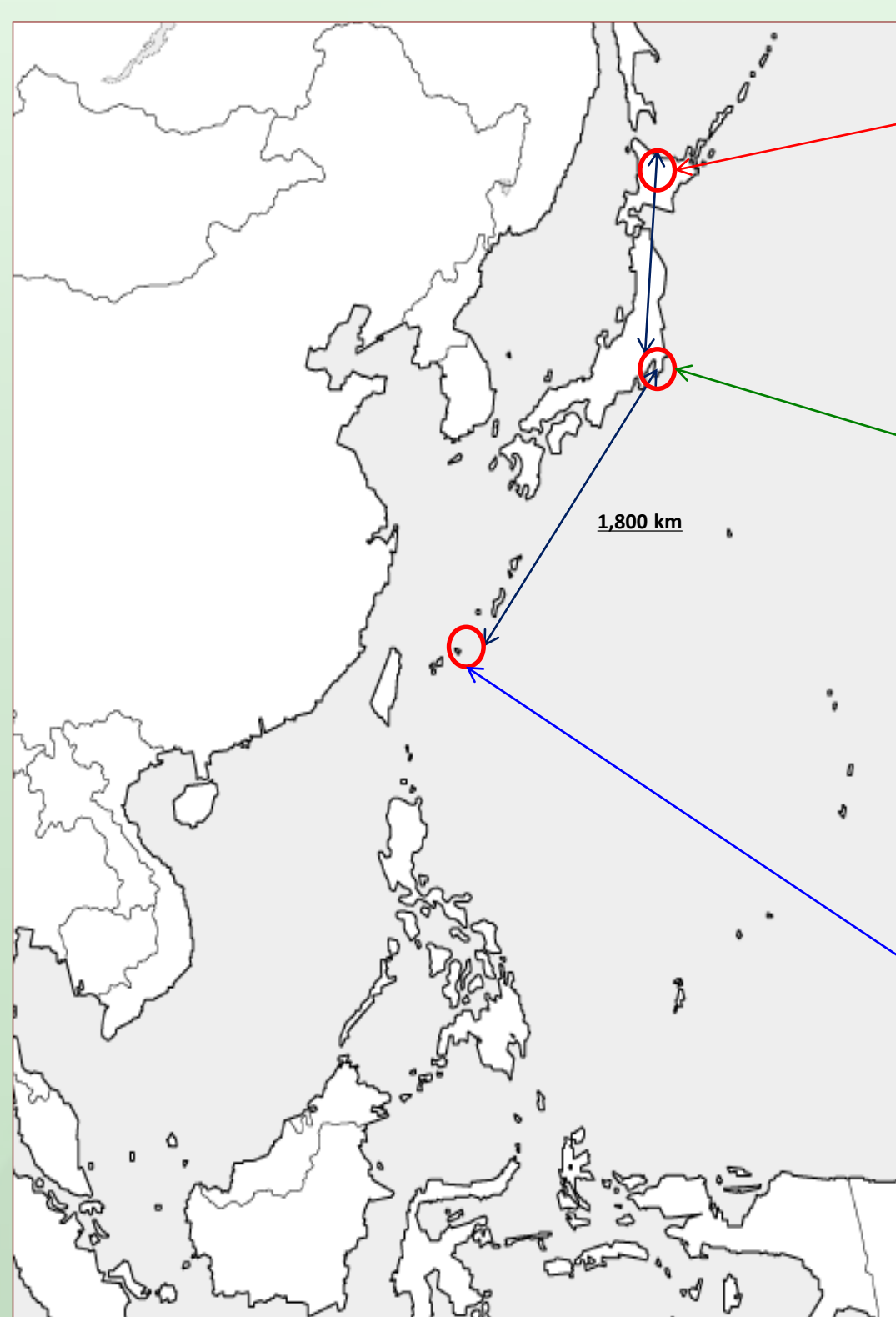


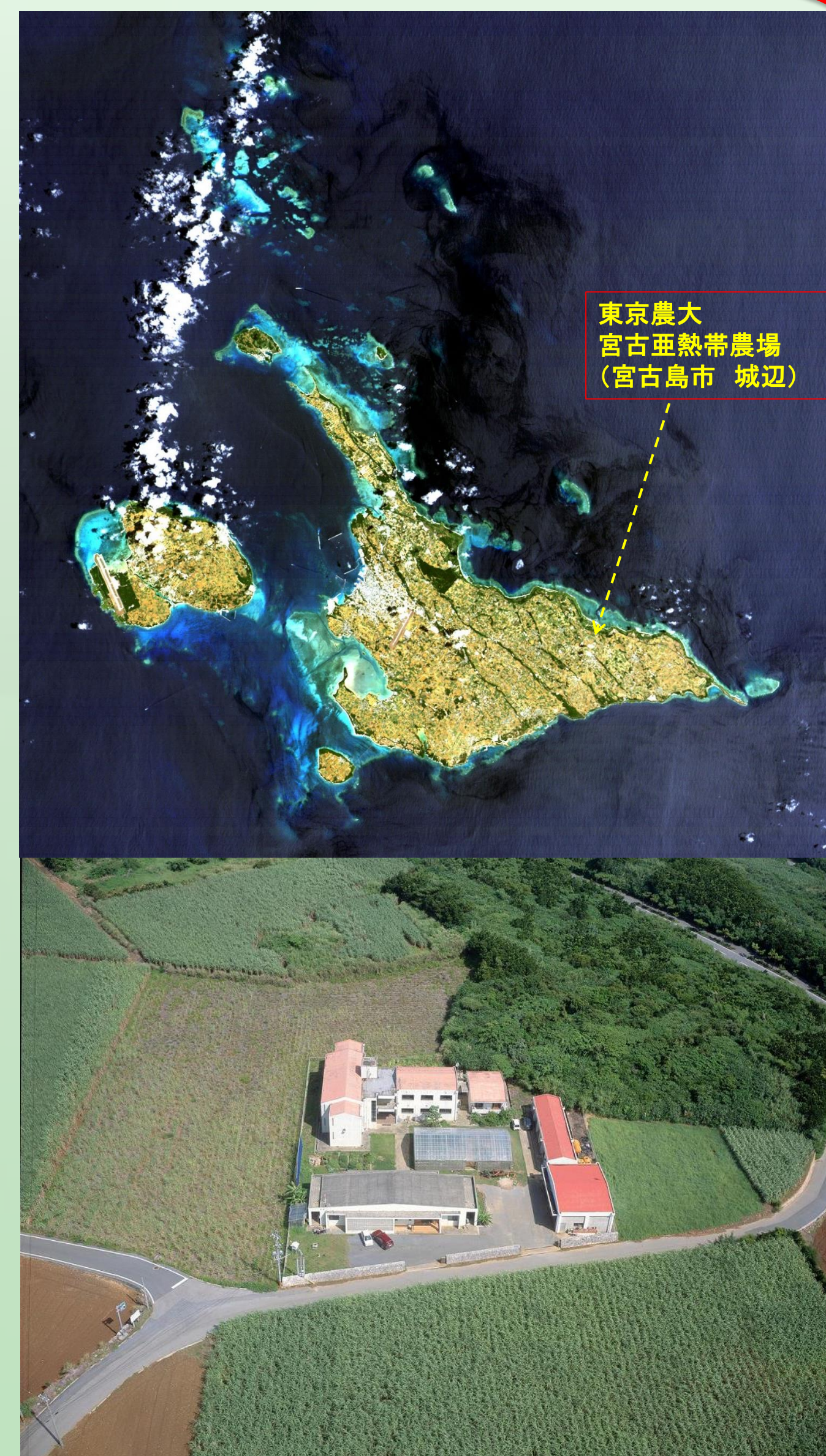


東京農大
オホーツクキャンパス
(北海道 網走)

東京農大
世田谷・厚木キャンパス
(東京、神奈川)

東京農大
宮古亜熱帯農場
(沖縄県 宮古島)

どこにあるの？



当農場は、亜熱帯に位置する沖縄県の宮古島にあります。宮古島は面積約159km²、周囲約100km、人口約5万6千、年平均気温は23.3℃、年降水量約2,000mmといった一年を通じて温暖な島です。当農場は昭和61年に熱帯農学に関する実習教育と試験研究を目的に開設されました。圃場は管理基地から北方約2kmに位置し、9.5haの土地にハウスや堆肥舎などの施設が設置され、露地にはヤムイモの品種保存圃場、サトウキビなどを栽培しています。その他に、試験圃場、農場研修生圃場、草地、農業機械実習用地、防風林帯などを有しています。

誰・どこのため？



実習する学生
農業開発実習
(国際農業開発学科
必修科目 3年次)

海外からの研修生
宮古島(地域貢献)



研究する学生
(学部生、大学院生)

技術練習生
-未来の農大生-
(現場から農大へ)

青年海外協力隊を目指す人



何をしているの？



ダイジョは焼酎にもなります。

ヤムイモの栽培や生理
・生態学的研究



日本最大のダイジョの遺伝資源



熱帯・亜熱帯の作物や果樹の栽培・研究
(サトウキビ、タロイモ・陸稻・マンゴー
・ドラゴンフルーツ・コーヒーなど)



地域のための 世界のための 地球のための

研究の場



当農場の研究における3本柱

1) 地域のための研究: 当農場では、現場からの声に答えるよう、地域と連携した研究を進めています。ヤムイモについては、ヤムイモ焼酎の原料となるダイジョの肥培管理方法の開発や適正品種の選抜、宮古島の特産品であるマンゴーの出荷時期を多様化させるための花芽分化の制御や果実の長期貯蔵方法の開発などの生理・生態学的な研究を行っております。研究結果が地域農業の発展に繋がることを目指しています。

2) 世界のための研究: ヤムイモを中心とする遺伝資源の評価、交配や倍数性育種による新品種の評価および熱帯・亜熱帯島嶼域に適応する挿し木繁殖方法の開発、ヤムイモの機械化栽培法などは、ヤムイモを主食とする西アフリカや南太平洋諸国の農業の発展に貢献します。得られた研究結果は農大と技術提携を結んでいる国際熱帯農業研究所などを通じ、アフリカや南太平洋、カリブ海の国々に伝えることを目指しています。タロイモ、陸稲、豆類、コーヒー、マオウなど多様な熱帯・亜熱帯の作物なども研究しています。

3) 地球のための研究: ヤムイモの肥料反応性、特に窒素の吸収や施用方法について研究を進めております。窒素肥料施用の削減や緩効性肥料の利用など、地下水汚染や環境に負荷をかけない農業を目指しております。

**産官学連携協定
(2013年～)
(東京農大・東急電鉄・
宮古観光開発・
宮古島市**



新しいヤムイモで宮古島から
新しい焼酎を！

**宮古島マンゴー丸ごと
日本プロジェクト
(2017年～)**



もうマンゴーは腐らせないぞ！

**ICTを活用した
ヤムイモ
生産システムの開発
(2017年～)**

Global G.A.P認証取得を目指して！

日本の大学で初めて
農作物での国際認証取得を！

**農大戦略プロジェクト(2015年～)
熱帯性植物のジーンバンク化構想
ー有用植物遺伝資源の保存(+収集)と利用の開発ー**

課題①

・熱帯性植物遺伝資源(ヤムイモ・タロイモ)の宮古農場のジーンバンク化

課題②

・イモ類、豆類、カラシナを始めとする熱帯性の未利用・低利用有用資源植物の国内外での収集と特性評価

課題③

・未利用・低利用有用植物における加工特性の解析と新規利用



日本最大のヤムイモ遺伝資源！
みんなが使えることを目指して！

**大学院先導的実学研究プロジェクト(2017年～)
ヤムイモに内生する窒素固定細菌の解明と利用**



ヤムイモはマメ科の植物のように空気中の窒素も利用している！
世界で初めての発見は宮古農場から！



僕たち私たち技術練習生が研究を下支えしております。
僕たち私たちがいないと農場は回らないよ！
The 縁の下の力持ち！